

あたらしくはいった本 (令和元年9月 貸出開始資料から)

- 小説 老父よ、帰れ(久坂部羊/著) 虹にすわる(瀧羽麻子/著) 伊勢左木町探偵ブルース(東川篤哉/著) アネモネの姉妹リコリスの兄弟(古内一絵/著) 名探偵の密室(クリス・マクジョージ/著) 万波を翔る(木内昇/著) 地先(乙川優三郎/著) 三匹の子豚(真梨幸子/著) 銀座の紙ひこうき(はらだみずき/著) 穴掘り(本城雅人/著) 20CONTACTS(原田マハ/著) わたしのいるところ(ジュンパ・ラヒリ/著) 戦国十二刻(木下昌輝/著)
- 随筆・詩などの文学 命あれば(瀬戸内寂聴/著) やがて満ちてくる光の(梨木香歩/著) 夢ひらく彼方へ 上(渡辺京二/著) 伯爵のお気に入り(向田邦子/著)
- その他の本 いきもので読む、日本の神話(平藤喜久子/著) 人体、なんでそうなった?(ネイサン・レンツ/著) 「死ぬんじゃねーぞ!!」(中川翔子/著) 世界お産(きくちさかえ/文・写真) あなたは嫌いかもしいけど、とってもおもしろい蚊の話(三條場千寿/著)



『万波を翔る』
木内昇/著
日本経済新聞出版社



『命あれば』
瀬戸内寂聴/著
新潮社



『世界お産』
きくちさかえ/文・写真
二見書房

「だざいふのとしょかん 平成30年度の報告」を発行しました。
詳しくは、市民図書館ホームページをご覧ください。

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

令和元年	日	月	火	水	木	金	土
11						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

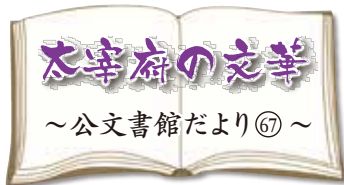
○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

戦後の太宰府と公民館

昭和24年に社会教育法が制定されると、公民館設置の気運が高まり、公民館は戦後の地域再建と社会教育の拠点として全国に設置され、旧太宰府町議会でも同年に公民館設置条例を制定しました。当初は設立場所を町役場内とし、職員は館長と専任主事の2人を任命しました。公民館運営審議会を設置し、4つの部を置いて委員は18人で構成されました。

また、各地区では公民分館も発足し、分館は公民館と連携しつつ独自の活動を始めます。分館長は当初、駐在員が任命されますが、後に区長が兼任し、分館主事と分館運営委員が分館長を支える体制となり、職員には分館活動の促進と特性を生かす「熱意のある積極的な人物」を選定しました。



～公文書館だより⑥7～

57年の市昇格に伴い、市長は「必ず建設したい」と準備を進め、市制施行後の昭和61年11月に中央公民館が完成しました。

昭和27年、公民館は本格的な活動をはじめ、広報紙「太宰府」を刊行します。記録でみえる初めての活動として、同年8月18日には夏野菜の品評会が開催され、同月24日にはバレーボール・卓球の分館対抗試合が実施されています。翌年から天満宮境内に建てられた「心池館」が施設として使用されました。町村合併後、町役場庁舎の新設や公民館条例の改正を経て、昭和34年、旧水城公民館は閉鎖し、太

宰府町公民館は町役場庁舎内に再び移転します。移転を知らせる同年2月の広報紙には「立派な部屋ではありませんが、何分独立公民館でなくなつたので、御不自由をおかけする」とあり、一部の行事は他の施設を使用することになりました。公民館は合併後、20年近く町役場庁舎内に存在し、当時の議会記録には新たに独立の中央公民館建設を求める声が残っています。昭和

太宰府市公文書館 篠崎 将貴